

1 素材需給の動向

(1) 素材の需要

平成27年の素材の需要量は2,509万2千m³で、前年に比べ49万3千m³（1.9%）減少した。

これを需要部門別にみると、製材用は1,618万2千m³、合板用は421万8千m³、木材チップ用は469万2千m³で、前年に比べ木材チップ用は17万3千m³（3.8%）増加したものの、製材用は47万9千m³（2.9%）、合板用は18万7千m³（4.2%）減少した。

この結果、需要部門別の構成割合は、製材用が64.5%、合板用が16.8%、木材チップ用が18.7%となった（表1、図1）。

図1 素材需要量の推移

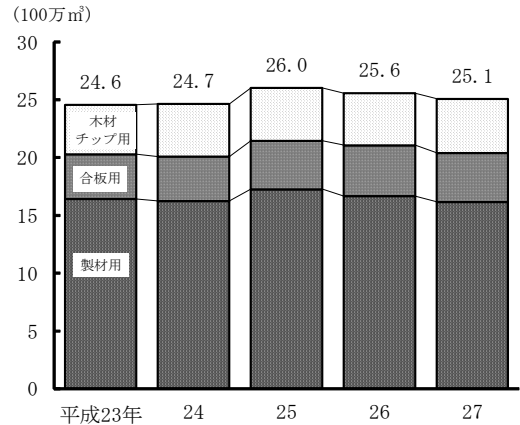


表1 需要部門別素材需要量

単位：千m³

年次	計	製材用	合板用	木材チップ用
平成26年	25,585	16,661	4,405	4,519
27	25,092	16,182	4,218	4,692
対前年比 (%)	98.1	97.1	95.8	103.8
構成比 (%)				
平成26年	100.0	65.1	17.2	17.7
27	100.0	64.5	16.8	18.7

(参考) 関連統計表

年次	1) 新設住宅着工戸数		2) 紙・板紙生産量		3) 製紙パルプ生産量	
	千戸	千戸	千t	千t	千t	千t
平成27年	909	504	26,228		8,727	
対前年比 (%)	101.9	103.0	99.1		97.5	

資料： 1) 国土交通省『建築着工統計』
2) 経済産業省『生産動態統計年報 紙・印刷・プラスチック製品・ゴム製品統計編』

(2) 素材の供給

素材の供給量は、国産材が2,004万9千m³で、前年に比べ13万3千m³（0.7%）増加したものの、外材は504万5千m³で、前年に比べ62万4千m³（11.0%）減少した。

この結果、素材供給量に占める国産材の割合は79.9%となり、前年を2.1ポイント上回った（表2、図2）。

図2 材種別素材供給量の推移

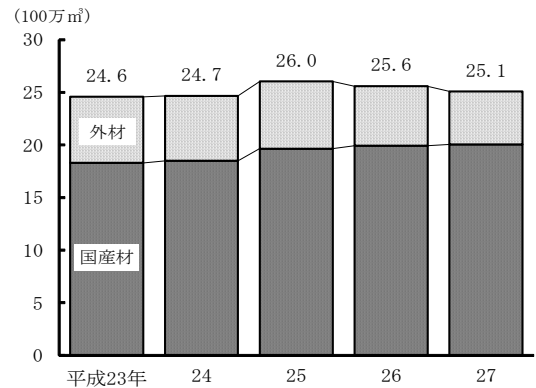


表2 需要部門別、材種別素材供給量

単位：千m³

区分	計	国産材			外材							
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	ラワン材		米材	北洋材	ニュージーランド材	その他
平成26年												
計	25,585	19,916	17,743	2,173	5,669	304	221	4,238	436	524	167	
製材用	16,661	12,211	12,116	95	4,450	88	5	3,365	347	489	161	
合板用	4,405	3,191	3,177	14	1,214	216	216	869	88	35	6	
木材チップ用	4,519	4,514	2,450	2,064	5	-	-	4	1	-	-	
平成27年												
計	25,092	20,049	17,815	2,236	5,045	272	196	3,803	343	473	151	
製材用	16,182	12,004	11,900	105	4,178	79	7	3,259	243	450	146	
合板用	4,218	3,356	3,340	16	864	193	189	544	100	20	5	
木材チップ用	4,692	4,689	2,575	2,115	3	0	0	0	0	3	-	
対前年比 (%)												
計	98.1	100.7	100.4	102.9	89.0	89.5	88.7	89.7	78.7	90.3	90.4	
製材用	97.1	98.3	98.2	110.5	93.9	89.8	140.0	96.8	70.0	92.0	90.7	
合板用	95.8	105.2	105.1	114.3	71.2	89.4	87.5	62.6	113.6	57.1	83.3	
木材チップ用	103.8	103.9	105.1	102.5	60.0	nc	nc	0.0	0.0	nc	nc	
構成比 (%)												
計	100.0	79.9	71.0	8.9	20.1	1.1	0.8	15.2	1.4	1.9	0.6	
製材用	100.0	74.2	73.5	0.6	25.8	0.5	0.0	20.1	1.5	2.8	0.9	
合板用	100.0	79.6	79.2	0.4	20.5	4.6	4.5	12.9	2.4	0.5	0.1	
木材チップ用	100.0	99.9	54.9	45.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	-	

注：数値は、四捨五入しているため、合計と内訳の計が一致しない場合がある（以下の表において同じ。）。

ア 国産材の供給

国産材の供給量（全国計のみ素材生産量と等しい。）を針葉樹、広葉樹別にみると、針葉樹は1,781万5千 m^3 で、合板用及び木材チップ用の生産量が増加したことから、前年に比べ7万2千 m^3 （0.4%）増加し、広葉樹は223万6千 m^3 で、全ての需要部門で増加したことから、前年に比べ6万3千 m^3 （2.9%）増加した。

針葉樹を樹種別にみると、ひのき及びからまつは、前年に比べそれぞれ3万1千 m^3 （1.3%）、7万 m^3 （3.0%）減少したものの、素材供給量の6割弱を占めるすぎは、前年に比べ3万2千 m^3 （0.3%）、あかまつ・くろまつ及びえぞまつ・とどまつも、前年に比べそれぞれ10万5千 m^3 （15.6%）、1万1千 m^3 （1.1%）増加した（表2及び3、図3）。

図3 樹種別素材生産量の推移

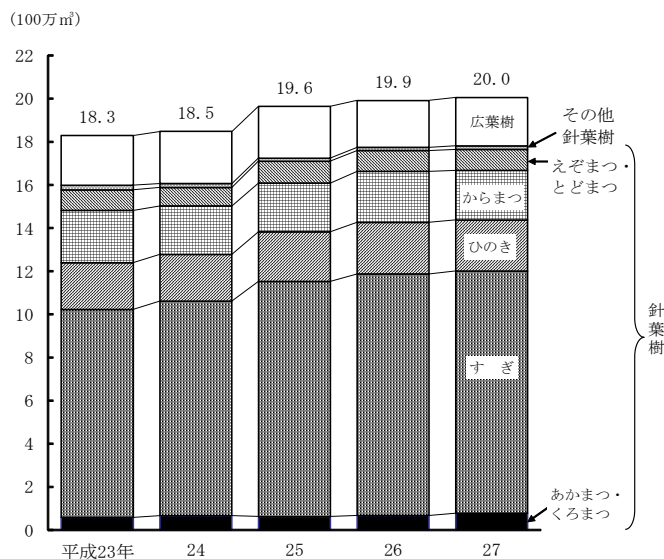


表3 需要部門別、樹種別素材生産量

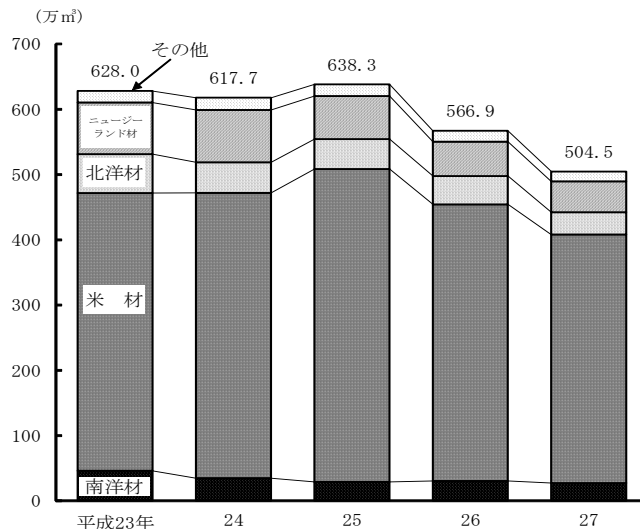
区分	計	針葉樹							広葉樹
		小計	あかまつ・くろまつ	すぎ	ひのき	からまつ	えぞまつ・とどまつ	その他	
平成26年									
計	19,916	17,743	674	11,194	2,395	2,369	958	153	2,173
製材用	12,211	12,116	176	7,872	2,039	1,270	704	55	95
合板用	3,191	3,177	152	2,111	126	681	94	13	14
木材チップ用	4,514	2,450	346	1,211	230	418	160	85	2,064
平成27年									
計	20,049	17,815	779	11,226	2,364	2,299	969	170	2,236
製材用	12,004	11,900	154	7,869	1,935	1,198	683	55	105
合板用	3,356	3,340	237	2,087	188	687	126	14	16
木材チップ用	4,689	2,575	388	1,270	241	414	160	101	2,115
対前年比(%)									
計	100.7	100.4	115.6	100.3	98.7	97.0	101.1	111.1	102.9
製材用	98.3	98.2	87.5	100.0	94.9	94.3	97.0	100.0	110.5
合板用	105.2	105.1	155.9	98.9	149.2	100.9	134.0	107.7	114.3
木材チップ用	103.9	105.1	112.1	104.9	104.8	99.0	100.0	118.8	102.5
構成比(%)									
計	100.0	88.9	3.9	56.0	11.8	11.5	4.8	0.8	11.2
製材用	100.0	99.1	1.3	65.6	16.1	10.0	5.7	0.5	0.9
合板用	100.0	99.5	7.1	62.2	5.6	20.5	3.8	0.4	0.5
木材チップ用	100.0	54.9	8.3	27.1	5.1	8.8	3.4	2.2	45.1

単位：千 m^3

イ 外材の供給

外材の供給量を産地材別にみると、外材の8割弱を占める米材は380万3千 m^3 、ニュージーランド材は47万3千 m^3 、北洋材は34万3千 m^3 、南洋材は27万2千 m^3 で、前年に比べそれぞれ43万5千 m^3 （10.3%）、5万1千 m^3 （9.7%）、9万3千 m^3 （21.3%）、3万2千 m^3 （10.5%）減少した（表2、図4）。

図4 外材供給量の推移



2 木材産業の動向

(1) 製材業

ア 製材工場数及び製材用動力の出力数

平成27年12月31日現在の製材工場数は5,206工場で、前年に比べ263工場(4.8%)減少した。

これを製材用動力の出力階層別にみると、全ての出力階層で減少した。

また、総出力数は65万3千kWで、前年に比べ2千kW(0.3%)減少したものの、1工場当たりの出力数は125.4kWで、前年に比べ5.6kW(4.7%)増加した(表4)。

表4 製材工場数、製材用動力の出力数
(各年12月31日現在)

出力階層	単位	実数 平成26年	実数 平成27年	対前年比	構成比
				%	%
工場数計	工場	5,469	5,206	95.2	100.0
7.5～22.5kW未満	"	692	635	91.8	12.2
22.5～37.5	"	1,079	1,033	95.7	19.8
37.5～75.0	"	1,684	1,571	93.3	30.2
75.0～150.0	"	990	959	96.9	18.4
150.0～300.0	"	607	592	97.5	11.4
300.0kW以上	"	417	416	99.8	8.0
総出力数	kW	654,943.2	652,695.9	99.7	-
1工場当たり出力数	"	119.8	125.4	104.7	-

イ 従業員数

平成27年12月31日現在で操業している工場の従業者数は2万9,110人で、前年に比べ1,213人(4.0%)減少した。

また、1工場当たりの従業者数は5.6人で、前年並みとなった(表5)。

表5 従業者数規模別製材工場数及び従業者数(各年12月操業)

年次	従業者数規模別製材工場数(12月操業)								従業者数 (12月31日現在) 人	1工場 当たり 従業者数 人
	計	4人以下	5～9	10～19	20～29	30～49	50人以上			
実数 平成26年	5,448	3,613	1,131	477	123	72	32	30,323	5.6	
27	5,159	3,380	1,090	472	120	63	34	29,110	5.6	
対前年比(%)	94.7	93.6	96.4	99.0	97.6	87.5	106.3	96.0	100.0	
構成比(%) 平成26年	100.0	66.3	20.8	8.8	2.3	1.3	0.6	-	-	
27	100.0	65.5	21.1	9.1	2.3	1.2	0.7	-	-	

ウ 製材用素材消費量

平成27年の製材用素材の消費量は1,611万1千m³で、前年に比べ51万9千m³(3.1%)減少した。

これを製材用動力の出力階層別にみると、全ての出力階層において、前年に比べ減少しており、消費量の7割弱を占める300.0kW以上の階層において、前年に比べ11万8千m³(1.1%)減少した。

なお、1工場当たりの素材消費量は3,095m³で、前年に比べて54m³(1.8%)増加した(表6、図5)。

図5 製材工場数及び素材消費量の出力階層別構成割合(平成27年)

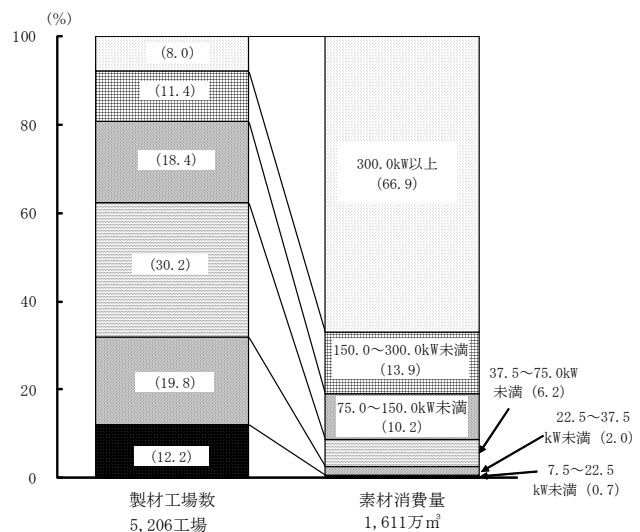


表6 製材用動力の出力階層別素材消費量

出力階層	単位	平成26年	平成27年	対前年比	構成比
計	千m ³	16,630	16,111	96.9	100.0
7.5～22.5kW未満	〃	138	113	81.9	0.7
22.5～37.5	〃	358	323	90.2	2.0
37.5～75.0	〃	1,051	1,006	95.7	6.2
75.0～150.0	〃	1,690	1,648	97.5	10.2
150.0～300.0	〃	2,499	2,240	89.6	13.9
300.0kW以上	〃	10,894	10,776	98.9	66.9
1工場当たり消費量	m ³	3,041	3,095	101.8	-

エ 製材用素材入荷量

(ア) 平成27年の製材用素材の入荷量は1,618万2千m³で、前年に比べ47万9千m³ (2.9%) 減少した。

これを国産材、外材別にみると、国産材の入荷量は1,200万4千m³、外材の入荷量は417万8千m³で、前年に比べそれぞれ20万7千m³ (1.7%)、27万2千m³ (6.1%) 減少した。

この結果、製材用素材入荷量に占める国産材の割合は74.2%で、前年 (73.3%) を0.9ポイント上回った (表7、図6)。

図6 製材用素材入荷量の推移

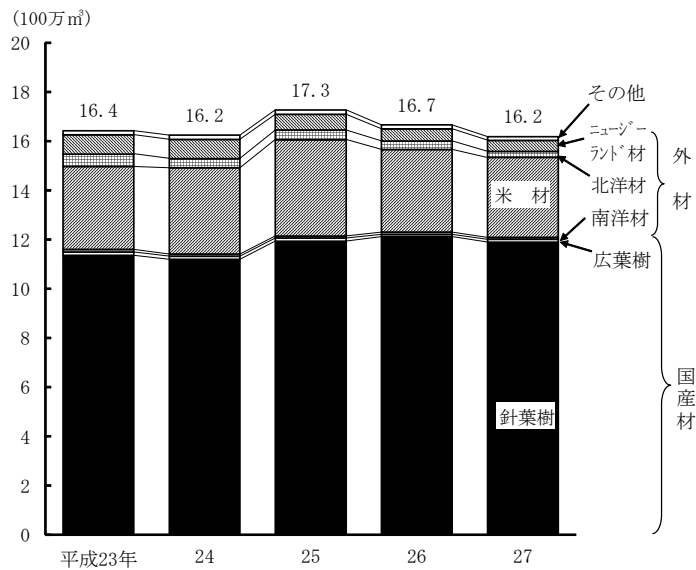


表7 材種別製材用素材入荷量

単位: 千m³

年次	計	国産材			外材						
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	ラワン材	米材	北洋材	ニューゼaland材	その他
平成26年	16,661	12,211	12,116	95	4,450	88	5	3,365	347	489	161
27	16,182	12,004	11,900	105	4,178	79	7	3,259	243	450	146
対前年比 (%)	97.1	98.3	98.2	110.5	93.9	89.8	140.0	96.8	70.0	92.0	90.7
構成比 (%)											
平成26年	100.0	73.3	72.7	0.6	26.7	0.5	0.0	20.2	2.1	2.9	1.0
27	100.0	74.2	73.5	0.6	25.8	0.5	0.0	20.1	1.5	2.8	0.9

(イ) 平成27年に素材の入荷があった製材工場は5,119工場で、前年に比べ317工場（5.8%）減少した。

これを入荷類型別にみると、国産材のみは3,906工場、国産材と外材は923工場、外材のみは290工場で、前年に比べそれぞれ206工場（5.0%）、88工場（8.7%）、23工場（7.3%）減少した。

入荷量でみると、国産材のみは1,100万9千 m^3 、国産材と外材は281万5千 m^3 、外材のみは235万3千 m^3 で、前年に比べそれぞれ15万2千 m^3 （1.4%）、1万3千 m^3 （0.5%）、31万9千 m^3 （11.9%）減少した。

また、製材用動力の出力階層別にみると、「300.0kW以上」の工場が入荷量の全体の7割弱を占めている（表8）。

表8 製材用動力の出力階層別、入荷類型別製材工場数及び入荷量

出力階層	計		国産材のみ		国産材と外材		外材のみ	
	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量
平成26年								
計	5,436	16,661	4,112	11,161	1,011	2,828	313	2,672
7.5～22.5kW未満	685	136	571	116	94	17	20	3
22.5～37.5	1,074	357	908	294	131	55	35	8
37.5～75.0	1,671	1,072	1,236	781	358	241	77	50
75.0～150.0	988	1,697	684	1,236	224	315	80	146
150.0～300.0	604	2,508	411	1,846	130	376	63	286
300.0kW以上	414	10,891	302	6,888	74	1,824	38	2,179
平成27年								
計	5,119	16,182	3,906	11,009	923	2,815	290	2,353
7.5～22.5kW未満	612	120	544	102	51	8	17	10
22.5～37.5	1,005	325	823	250	146	59	36	17
37.5～75.0	1,554	1,012	1,178	777	304	191	72	45
75.0～150.0	951	1,655	656	1,245	222	289	73	122
150.0～300.0	582	2,271	398	1,696	127	368	57	210
300.0kW以上	415	10,799	307	6,942	73	1,907	35	1,950
対前年比(%)								
計	94.2	97.1	95.0	98.6	91.3	99.5	92.7	88.1
7.5～22.5kW未満	89.3	88.2	95.3	87.9	54.3	47.1	85.0	333.3
22.5～37.5	93.6	91.0	90.6	85.0	111.5	107.3	102.9	212.5
37.5～75.0	93.0	94.4	95.3	99.5	84.9	79.3	93.5	90.0
75.0～150.0	96.3	97.5	95.9	100.7	99.1	91.7	91.3	83.6
150.0～300.0	96.4	90.6	96.8	91.9	97.7	97.9	90.5	73.4
300.0kW以上	100.2	99.2	101.7	100.8	98.6	104.6	92.1	89.5

図7 用途別製材品出荷量の推移

オ 製材品出荷量

製材品出荷量は923万1千 m^3 で、前年に比べ36万4千 m^3 （3.8%）減少した。

これを用途別にみると、出荷量の8割強を占める建築用材で、前年に比べ39万4千 m^3 （5.0%）減少した。なお、その他の用途では増加した。

また、人工乾燥材出荷量は315万3千 m^3 で、前年に比べ6万6千 m^3 （2.1%）減少し、製材品の出荷量に占める人工乾燥材出荷量の割合は34.2%で、前年（33.5%）を0.7ポイント上回った（表9、図7）。

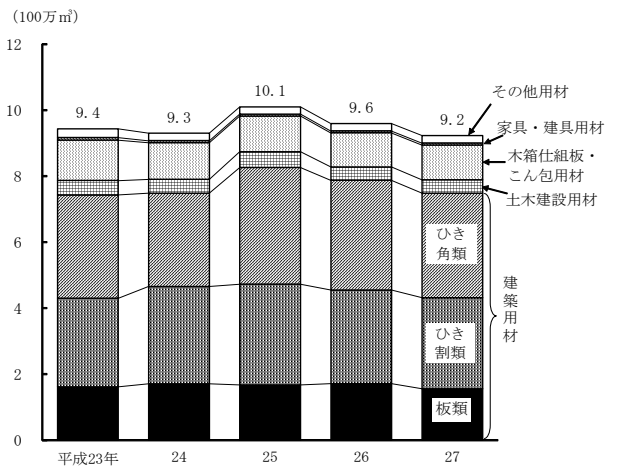


表9 用途別製材品出荷量

単位：千 m^3

年次	計	建築用材					人工乾燥材	土木建設用材	木箱仕組板・こん包用材	家具・建具用材	その他用材
		小計	板類	ひき割類	ひき角類						
平成26年	9,595	3,219	7,875	1,711	2,839	3,325	409	1,033	56	222	
27	9,231	3,153	7,481	1,561	2,760	3,162	410	1,048	63	227	
対前年比(%)	96.2	97.9	95.0	91.2	97.2	95.1	100.2	101.5	112.5	102.3	
構成比(%)											
平成26年	100.0	33.5	82.1	17.8	29.6	34.7	4.3	10.8	0.6	2.3	
27	100.0	34.2	81.0	16.9	29.9	34.3	4.4	11.4	0.7	2.5	

(2) 合単板製造業

ア 合単板工場数及び従業者数

平成27年12月31日現在の合単板工場数は185工場で、前年に比べ1工場（0.5%）減少した。これを工場類型別にみると、普通合板のみを製造している工場は、前年に比べ2工場（6.9%）増加したものの、特殊合板のみを製造している工場は、前年に比べ3工場（2.1%）減少した。なお、その他の工場は前年同様であった。

合単板工場の従業者数は6,957人で、前年に比べ30人（0.4%）減少した。

なお、1工場当たりの従業者数は37.6人で、前年並みとなった（表10）。

表10 工場類型別、従業者規模別合単板工場数及び従業者数（各年12月31日現在）

工場類型	従業者数規模別工場数								従業者数		1工場当たり従業者数
	計		9人以下	10~49	50~99	100~199	200~299	300人以上	実数	対前年比	
	実数	対前年比									
平成26年	工場	%	工場	工場	工場	工場	工場	工場	人	%	人
単板のみ	14	100.0	6	6	-	2	-	-	325	93.7	23.2
普通合板のみ	29	93.5	2	7	4	12	3	1	1)3,565	1)98.9	1)111.4
普通合板と特殊合板	3	150.0	-	1	1	1	-	-
特殊合板のみ	140	94.6	79	47	8	2	3	1	3,097	97.5	22.1
平成27年	185	99.5	79	67	14	18	6	1	6,957	99.6	37.6
単板のみ	14	100.0	6	5	-	3	-	-	317	97.5	22.6
普通合板のみ	31	106.9	2	11	4	10	3	1	1)3,687	1)103.4	1)108.4
普通合板と特殊合板	3	100.0	1	-	1	-	1	-
特殊合板のみ	137	97.9	70	51	9	5	2	-	2,953	95.4	21.6

注：1)は、「普通合板のみ」と「普通合板と特殊合板」の合計を表示している。

図8 単板製造用素材入荷量の推移

イ 単板製造用素材入荷量

平成27年の単板製造用素材の入荷量は421万8千m³で、前年に比べ18万7千m³（4.2%）減少した。

これを国産材、外材別にみると、国産材は335万6千m³で、前年に比べ16万5千m³（5.2%）増加したものの、外材は86万4千m³で、前年に比べ35万m³（28.8%）減少した。

この結果、単板製材用素材入荷量に占める国産材の割合は79.6%で、前年（72.4%）を7.2ポイント上回った（表11、図8）。

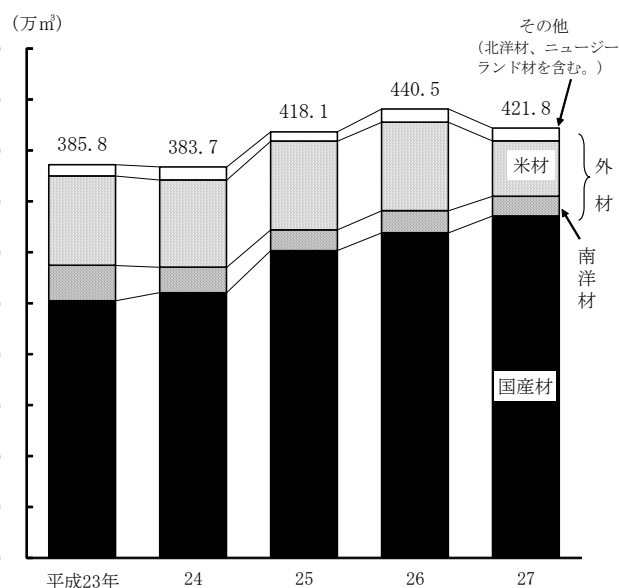


表11 材種別単板製造用素材入荷量

年次	計	国産材			外材							
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	針葉樹	南洋材		米材	北洋材	ニュージーランド材	その他
							ラワン材					
平成26年	4,405	3,191	3,177	14	1,214	941	216	216	869	88	35	6
27	4,218	3,356	3,340	16	864	619	193	189	544	100	20	5
対前年比 (%)	95.8	105.2	105.1	114.3	71.2	65.8	89.4	87.5	62.6	113.6	57.1	83.3
構成比 (%)												
平成26年	100.0	72.4	72.1	0.3	27.6	21.4	4.9	4.9	19.7	2.0	0.8	0.1
27	100.0	79.6	79.2	0.4	20.5	14.7	4.6	4.5	12.9	2.4	0.5	0.1

単位：千m³

ウ 普通合板生産量

平成27年の普通合板生産量は275万6千 m^3 で、前年に比べ5万7千 m^3 （2.0%）減少した。

これを厚さ別にみると、「6～12mm未満」で1万8千 m^3 （5.7%）増加したものの、全体の9割弱を占める「12mm以上」の階層で3万3千 m^3 （1.4%）、「6mm未満」で4万3千 m^3 （42.6%）減少した。

また、生産量のうち針葉樹合板生産量は256万9千 m^3 で、前年に比べ4万6千 m^3 （1.8%）減少した。

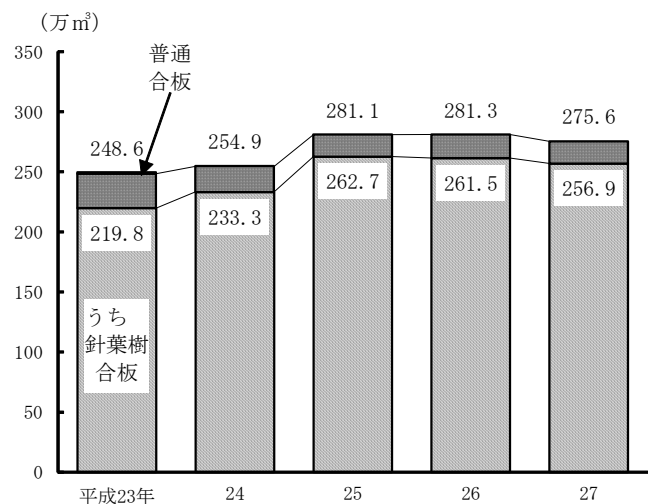
この結果、普通合板生産量に占める針葉樹合板生産量の割合は93.2%で、前年（93.0%）を0.2ポイント上回った（表12、図9）。

表12 普通合板生産量

区 分	平成26年	平成27年	対前年比	構成比
	千 m^3	千 m^3		
普通合板生産量	2,813	2,756	98.0	100.0
6 mm 未 満	101	58	57.4	2.1
6 ～ 12 mm 未 満	314	332	105.7	12.0
12 ～ 24 mm 未 満	…	1,355	nc	49.2
24 mm 以 上	…	1,010	nc	36.6
（参考）12mm以上	2,398	2,365	98.6	85.8
うち針葉樹合板	2,615	2,569	98.2	93.2

注：1 厚さ別生産量は、平成27年から厚さ区分を「6mm未満」、「6～12mm未満」、「12mm～24mm未満」及び「24mm以上」に変更した。
 2 生産量のうち「12～24mm未満」及び「24mm以上」は、平成26年の遡及ができないことから、対前年比を「nc」表章とした。
 3 参考として「12mm以上」を表章した。

図9 普通合板生産量の推移



エ 特殊合板生産量

平成27年の特殊合板生産量は52万4千 m^3 で、前年に比べ6万 m^3 （10.3%）減少した。

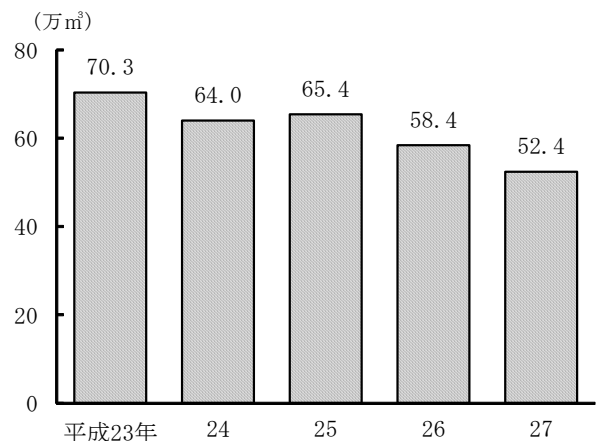
これを種類別にみると、オーバーレイ合板、プリント合板及び天然木化粧合板は、前年に比べそれぞれ1千 m^3 （5.6%）、1万5千 m^3 （21.4%）、1万 m^3 （43.5%）増加したものの、塗装合板及びその他の合板は、前年に比べそれぞれ2千 m^3 （40.0%）、8万4千 m^3 （17.9%）減少した。

また、木質複合床板は25万3千 m^3 で、前年に比べ4万1千 m^3 （13.9%）減少した（表13、図10）。

表13 特殊合板生産量

区 分	平成26年	平成27年	対前年比	構成比
	千 m^3	千 m^3		
特殊合板生産量	584	524	89.7	100.0
オーバーレイ合板	18	19	105.6	3.6
プリント合板	70	85	121.4	16.2
塗装合板	5	3	60.0	0.6
天然木化粧合板	23	33	143.5	6.3
その他の合板	468	384	82.1	73.3
うち木質複合床板	294	253	86.1	48.3

図10 特殊合板生産量の推移



(3) 木材チップ製造業

ア 木材チップ工場数及び従業者数

平成27年12月31日現在の木材チップ工場数は1,424工場で、前年に比べ53工場（3.6%）減少した。

これを専門・兼営区別にみると、製材又は合単板工場との兼営工場は1,067工場、木材チップ専門工場は357工場で、前年に比べそれぞれ25工場（2.3%）、28工場（7.3%）減少した。

また、木材チップ工場の従業者数（製材又は合単板工場との兼営工場の従業者のうち、主たる業務が木材チップ業務以外のものを除く。）は2,803人で、前年に比べ50人（1.8%）減少した。

なお、1工場当たりの従業者数は2.0人で、前年に比べ0.1人（5.3%）増加した（表14）。

表14 専門・兼営区分別、従業者数規模別木材チップ工場数及び従業者数
(各年12月31日現在)

専門・兼営区分別	従業者数規模別工場数						従業者数		1工場当たり従業者数
	計		4人以下	5～9	10～19	20人以上	実数	対前年比	
	実数	対前年比							
	工場	%	工場	工場	工場	工場	人	%	人
平成26年	1,477	97.8	1,279	141	49	8	2,853	96.4	1.9
木材チップ専門工場	385	99.0	209	122	47	7
製材又は合単板工場との兼営工場	1,092	97.4	1,070	19	2	1
平成27年	1,424	96.4	1,237	128	49	10	2,803	98.2	2.0
木材チップ専門工場	357	92.7	193	110	46	8
製材又は合単板工場との兼営工場	1,067	97.7	1,044	18	3	2

注：従業者数については、「木材チップ専門工場」及び「製材又は合単板工場との兼営工場」別に集計を行っていない。

イ 木材チップ用素材入荷量

平成27年の木材チップ用の素材入荷量は469万2千m³で、前年に比べ17万3千m³（3.8%）増加した。

これを国産材、外材別にみると、大層を占める国産材の入荷量は468万9千m³で、前年に比べ17万5千m³（3.9%）増加した。外材の入荷量は3千m³で、前年に比べ2千m³（40.0%）減少した（表15、図11）。

図11 木材チップ用素材入荷量の推移

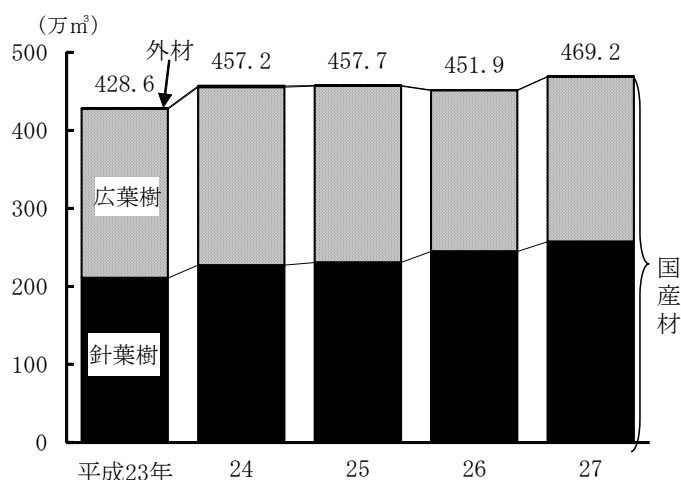


表15 材種別木材チップ用素材入荷量

単位：千m³

年次	計	国産材			外材						
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	ラワン材	米材	北洋材	ニュージーンランド材	その他
平成26年	4,519	4,514	2,450	2,064	5	-	-	4	1	-	-
27	4,692	4,689	2,575	2,115	3	0	0	0	0	3	-
対前年比 (%)	103.8	103.9	105.1	102.5	60.0	nc	nc	0.0	0.0	nc	nc
構成比 (%)											
平成26年	100.0	99.9	54.2	45.7	0.1	-	-	0.1	0.0	-	-
27	100.0	99.9	54.9	45.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	-

ウ 木材チップ生産量及び出荷量

平成27年の木材チップ生産量は574万5千tで、前年に比べ10万5千t（1.8%）減少した。

これを原材料別にみると、素材（原木）は、前年に比べ2万1千t（0.8%）増加したものの、工場残材は11万t（5.6%）、解体材・廃材は1万6千t（1.3%）、林地残材は5千t（4.5%）、前年に比べそれぞれ減少した。

また、針葉樹・広葉樹別にみると、針葉樹は318万3千t、広葉樹は135万3千tで、前年に比べそれぞれ3万9千t（1.2%）、5万2千t（3.7%）減少した（表16、図12）。

表16 木材チップ生産量

区 分	平成26年	平成27年	対前年比	構成比
	千t	千t		
木材チップ生産量	5,850	5,745	98.2	100.0
原材料別				
素材（原木）	2,537	2,558	100.8	44.5
工場残材	1,980	1,870	94.4	32.6
林地残材	110	105	95.5	1.8
解体材・廃材	1,223	1,207	98.7	21.0
針葉樹・広葉樹別				
針葉樹	3,222	3,183	98.8	-
広葉樹	1,405	1,353	96.3	-

注：針葉樹・広葉樹別には解体材・廃材を含まない。

図12 木材チップ生産量の推移

